

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100459		
法人名	有限会社 ライフ・シップ		
事業所名	嘉瀬紀水苑		
所在地	佐賀市嘉瀬町大字荻野698番地		
自己評価作成日	平成29年3月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月23日	外部評価確定日	平成29年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様やご家族様が「嘉瀬紀水苑で良かった」と思って頂けるように支援に努めています。又、「楽しく」「なごやか」「すこやか」をモットーにご利用者様と全職員が共に暮らせるようにしています。天候の良い日には、近隣への散歩や森林公園へピクニックに出掛けて、室外でのお弁当をととても喜んで貰えます。地域交流会「おしるこ会」「クリスマス会」には地域の方や子供達も来て貰い、楽しい一時を一緒に過ごせるようにするなど、利用者様の笑顔が多く見えるように取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設17年目を迎えている嘉瀬紀水苑は、事業所代表の介護の経験から、地域の中で認知症の方との関わりを深めたい、家庭的な雰囲気の中にも尊厳を大事にし、人間味にあふれ何よりも利用者優先の支援をしたいという思いが事業所の設立につながった。その思いは、現在もそのまま受け継がれている。理念である、家庭的な雰囲気の中と地域の方々との交流の中で、「楽しく」「なごやかに」「健やかに」を実現するために、利用者や家族のところに寄り添いながら、毎日の支援にいそしんでいる。職員同士が信頼し合い、チームワークの良さで、利用者の支援にあたっている。</p> <p>食事担当の職員が別枠で配置されており、毎日、利用者一人ひとりに応じた食事が台所で調理されている。食事介助が必要な方にもゆっくと優しい支援である。</p> <p>管理者の自宅が、事業所の隣りにあり、それだけに地域との結び付きも深まっている。近所の方や小中学生も気軽に訪れている。12回目を数える「地域交流会・おしるこ会」は、近隣住民の楽しみでもある。田園風景の中の散歩や、近くの森林公園までの外出、さくらやひまわり見学等のドライブ等もある。また、すぐ目の前で展開する「バルーン見学」は、ここならではの工夫である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえて理念をつくり、全職員がその理念を共有して日々の業務の中で実践につなげている。	開設当初の理念を全職員で再検討し、現在の理念となっている。理念を具現化するために、年度初めに関わり方について検討し、年度目標を立てている。毎月定例の会議を行いつつ、随時話し合いを持ち、具体的な支援の在り方について、意思の統一を図っている。施設長の適切な指導、助言も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治会への参加や「子供10番」地域交流「おしるこ会」、地域の子供達との交流会、地域の方よりボランティア訪問に来て頂いたり、近隣散歩の時には挨拶をしたりで日常的に交流している。	地域の自治会にも加入し、職員は清掃活動やリサイクル運動に参加している。回覧板や地域住民から身近な地域情報を得ている。長年続いている「地域交流会おしるこ会」は踊りやゲームもあり、住民の楽しみでもある。地域の子どもたちやお母さんも参加するクリスマス会や、中学生からの「折ッル」が届いたり、体験学習に見えるなど地域との交流も盛んである。近所の方からの野菜やイチゴの差し入れもあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて高齢者の方等に暮らしに役立てる事がないか話し合いして地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご利用者、ご家族様、地域包括センター様、自治会会長様、等御出席して頂き自己評価、外部評価の報告や話し合いを行い色々な意見を活かしながらサービス向上に努めている。	年に6回開催されている。開催テーマに応じて推進委員以外にも出席を要請している。単なる会議でなく、行事や地域交流を兼ねて行う等の会議内容の工夫をしている。地域の協力を得た防災訓練、地域住民との交流の深まり、おしるこ会の試食など、極めて有意義な会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の方と連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、行政の福祉担当課や介護事業所に顔を出して、課題解決のための相談をしたり、情報交換をしている。予防接種の件や生活保護関係の医療費の件で連絡を取り合うなど、常に協力関係が保たれている。広域介護事業所からの指導についても、その後の支援に即刻結び付け、その報告もきちんと行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が勉強会で身体拘束をしないケアを理解して、玄関の施錠は夜間の戸締りのみで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部での研修会や事業所での勉強会で、身体拘束のない支援について全職員の意識を高めている。言葉による心の拘束を含めて、身体拘束ゼロを目指しており、これまで拘束の事例はない。昼間の玄関の施錠も無く、外出傾向のある方には、一緒に散歩に出掛けて見守るなど、閉塞感を感じないように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が勉強会や研修会で高齢者虐待防止法について学ぶ機会を持ち、入浴時にはご利用者様の全身観察をして防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	勉強会や研修会で成年後見制度について学ぶ機会があり、必要な方には活用されるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様との契約の締結や解約又は改定等の時は、十分な説明を行い理解と納得が得られるように、又、不安や疑問点を尋ねて理解・納得をして頂けるように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様等が意見、要望、ご不満、苦情が言える雰囲気づくりに努めて、運営に反映させている。	面会に見えた家族に接茶等でもてなしながら、家族の心情を十分に察しての対応である。家族は面会に見える時の複雑な気持ちでも受け入れてもらえると感じている。家族会の意見や事業所独自のアンケートも実施され、運営に有効に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を日頃より設けて、反映させている。	会議では運営や支援について、職員からの提案、意見をみんなで検討している。全職員での自己評価、一人ひとりの状況に応じた事故防止への取り組み、次回に活きる行事の反省等の運営に関することや、向上心をもって働き続けるための取り組み、働きながら資格を取れるシフトづくり、ゆっくりできる休憩時間の工夫等、職場環境に関することも検討されて、その後の運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働いて貰えるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら学ぶ事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会をつくり、勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人が困っていること、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご本人の安心を確保できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族等が困っていること、不安なこと、要望等をよく聞く機会を持ち、ご家族等の安心を確保出来るように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、介護保険申請がされていない方、医療的に必要な方、施設に慣れられるか心配に方等に適した対処の方法を説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、利用者様から、色々と学ぶ機会が多く、暮らしを共にして支え合える関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の訪問があり、一緒に外出があり、御本人の好物の差し入れが有り、一緒に寛がれて、家族の絆を大切にされていることを全職員が共に御本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人がこれまで大切にされている馴染みの人や場所、近隣の方等が途切れないように支援に努めている。	長年利用していた美容室に出かけたり、散歩や買い物の時、知り合いの方と挨拶を交わしている。出来る方には手紙や電話の支援をしている。家族の協力を得てのお墓参りや自宅近くまでのドライブもある。以前は、この地域ならではのバルーン見学に出かけていたが、最近では事業所から目の前のバルーンの飛来を見学している。ボランティアの訪問も多く、新しくゆめさが大学からの訪問予定もあり、楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を全職員が把握し、共有し、孤立されることがないように、又、利用者様同士の関わり合いも持たれて、共に支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、利用者様やご家族等とのこれまでの関係を大切にしながら、お見舞い、相談等継続的に関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、全職員で情報を共有し、御本人の意向に出来るだけ沿うように努めている。	入居時の情報だけでなく、日々の関わりの中で利用者の心に寄り添いながら、把握に努めている。利用者との会話、利用者同士の会話、つぶやき、喜怒哀楽の表情や動作などからも利用者の心に思いをはせている。利用者の担当者による情報も全職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、情報収集し生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所用方式アセスメント表を用いて、御本人がより良く暮らして頂けるように課題とケアの在り方について御本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、モニタリングし、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の思いや意向がアセスメントされ、利用者の視点にたった、具体的で実現可能な介護計画が作成されている。事業所以外の関係者の声をふくめ、職員全員がそれぞれに関わっての計画である。利用者の状況変化を的確に把握し、計画の見直しも定期的、または随時にきちんと行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践やモニタリングを行い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様一人ひとりを支えるために、ご家族の状況、その時々生まれるニーズや要望に対応して柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握して、地域の方ボランティア、民生員、消防、教育機関等の関係の方と協働しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人及びご家族等の希望を大切に、又納得が得られたかかりつけ医が往診、受診されて事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の希望する病院での受診を継続している。受診には家族の協力を得ている。協力医療機関からは、月に2度の定期的な往診があり、データによる健康状態の丁寧な説明があつている。受診結果については情報の共有ができています。スタッフの健康診断もある。歯科は訪問歯科での受診を支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき、身体状態、経過等を看護職員に伝えて相談し、利用者様の健康管理や医療活用の支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、安心して治療が出来るように、又出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。又そうした場合に備えて連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時の早い段階から御本人、ご家族等と話し合い、重度化した場合や終末期の看取りの指針について事業所でする事等を説明し同意を得ている。かかりつけ医と地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	「重度化した場合及び看取り介護の実施に関する視点」が準備されている。利用開始時や、その後、家族の不安や健康状況の変化に応じて、家族と納得のいく話し合いが行われている。急変も考えられ、救急体制については、マニュアルが整えられている。これまで看取り介護の事例はない。	管理者は将来的に、看取り介護を希望する家族が出てくることを考えている。その場合に備えての再検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時に備えて利用者様が避難できる訓練を全職員が身につけるように地域の方と協力体制を得られるように働きかけている。	夜間想定、防火避難訓練が行われている。消防署の指導も行われ、その後の運営に活かされている。近所の方や地元消防団の協力を得ている。コンセントも含めて、定期的に消防設備点検も行っている。地震や、地域の過去に大水害の記録もあり、防災訓練も地域と協力して計画されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮しながら、言葉掛けや所在の把握を確認しながら安全に過ごして頂くように対応している。	一人ひとりの尊厳の尊重がすべての支援の基盤である。言葉づかい、接遇の勉強にも力を入れている。管理者は、利用者に「してやった」ではなく、「してもらった」という言葉づかいを大切にするように指導助言している。「ありがとう」「すみません」の言葉も聞かれた。毎月の苑便りに使用している個人の写真使用は、家族にも了承をもらい、配布も家族だけに限られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で御本人の希望や思い、自己決定できるように働きかけ、聞かせて貰っている。自分で決めたり、納得されながら暮らされている。強制や押しつけの支援とならないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、体調状態、気分配慮しながら御希望にそって支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい理美容は訪問にて支援させていただいている。利用者様も気に入っておられる。身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事になるように一人ひとりの好みや形態、力を活かしながら利用者様と職員と一緒に食事をしている。	三食とも苑の台所で食事が調理されている。職員も同じ食事を一緒にいただいている。柔らかくて薄味の一人ひとりに合わせた食事形態でもある。食事介助はゆっくりとした支援である。献立は管理栄養士の指導を受けており、献立表に職員からの質問や栄養士のコメント欄が設けられている。利用者の嗜好を活かした行事食や手づくりのおやつもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の一人ひとりの食事摂取量や栄養バランス、水分量(食事以外で1000CC)が一日を通じて確保出来るように、形態、品を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や義歯洗浄、御本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉掛けや誘導が必要な方等支援している。御本人の習慣を活かしてなるべくトイレでの排泄や排泄の自立に向けての支援をしている。	排泄チェック表や細やかな観察により、一人ひとりの排泄の習慣やパターンが把握され、その方にとって最良の支援が行われている。トイレ誘導やパット使用により、入所時よりも排泄の自立に向けた改善が見られる利用者もある。必要に応じて膣剤使用もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や運動への働きかけ等に取り組むように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一人ずつ、ゆっくり入って頂いている。希望やタイミングが必要な方には、その方に合わせて入浴を楽しんで貰えるように安全に配慮し、支援している。	基本的には週3回の入浴日だが、お湯の準備は毎日出来ており、希望する方は毎日でも、入浴日を変えてでも入浴が出来る。入浴順番や入浴時間帯に特別な制約はなく、ゆっくりとした入浴である。夜間帯の入浴を試みたこともあったが、利用者は昼間の明るい時間帯での入浴を希望され、現在は昼間の入浴である。車椅子の方もシャワーや足浴で支援している。脱衣場も暖房してある。冬至には柚子湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息されたり、休憩、睡眠を取って頂いている。安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用されている薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努め、服薬の支援と症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、好きな事や楽しみごと、気分転換、散歩や買い物、気晴らし、嗜好品等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候良い日には、近隣散歩や苑庭での日向ぼっこや御本人の希望を聞かせて貰いながら支援している。又、ご家族様と協力して頂きながら支援している。	利用者や家族からの外出支援の希望も多く、それに応える形で外出している。近隣の散歩や、日光浴、お店に出かけることもある。利用者が年齢を重ねる以前は、その日の希望で弁当を持って近くの公園まで出かけることも多かった。さくらやこいのぼり、ひまわり見学等のドライブは家族の協力を得ての外出支援である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人で管理出来る所持金。ご家族の要望に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な方へ御本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幹線道路沿いのために車音、暴風音の騒音防止に二重サッシ、ホールの天井窓から優しい光を取り入れている。利用者様と一緒に作った季節暦張り絵や花で季節を感じて、居心地よく過ごして貰えるように工夫している。	車の往来が多い県道に面しているが、二重サッシにより騒音は気にならない。天窓から優しい光が届くための採光調整、希望によるテレビ番組視聴、保温のためのひざかけ毛布、乾燥防止に加湿器やぬれタオルを下げるなど、随所に利用者が快適に過ごせるようにと、いろいろな工夫が見られる。玄関周りの花が季節を感じさせてくれる。また、子どもたちから贈られた手づくりの作品は、地域との交流の一端を物語っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が思い思いに過ごせるように、ソファや椅子が有り、又、独りになれたり出来る居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人やご家族と相談しながら馴染みの物、仏壇、好みのもの等活かして御本人が居心地よく過ごされるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた物や好きな物を持参してもらうように話をしている。仏壇、小さい整理ダンス、トランジスターラジオ、家族の写真、お化粧道具、愛着のある人形など、一人ひとりがその人らしくて、ゆったりと過ごせる場所になっている。持ち込みが少ない方にも、職員がその方らしく過ごせるようにと、意向を聴きながら配慮している。各居室とも、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を暮らせるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない